



# 光 和

7月号  
練馬区立光和小学校  
平成30年6月29日  
校長 城崎 真



## 集団での学びと成長 五年 下田移動教室

五年生の下田移動教室が六月二十一日から二三日までの二泊三日で行われました。移動教室は日々学校のなかでは、体験できないことを集団で行い子供たちの生活に変化をもたらす活動です。身に付けたい力としては、自立、集団の中での人間関係、礼儀などがあります。五月の下旬頃から移動教室の準備を始めていきました。二日目に行う「室内レクリエーション」のチーム決めでは、各クラスの関わりをより一層深めてほしいという願いから、全クラスをシヤッフルしてくじ引きで、チーム決めや曲決めを行

磯遊びの様子



いきました。その他にも、充実した移動教室になるよう行動班・生活班に分かれ準備を進めていきました。準備の中では、自分たちで休み時間に集まって話し合いながら進めていきました。しかし、移動教室は初めてということもあり、見通しがもてなかったり不安を抱えていたりする子供たちもいました。しかし、子供たちは協力しあうことで、不安を解消し、当日をむかえました。

一日目、ぼら納屋からのピクニカルハイキングコースの中では、一人一人が班の友達に声をかけ合いながら、楽しくハイキングをすることができました。バスの中では、各クラスがレクリエーションを行い子供たち同士の関わりも増えました。

二日目、天気にも恵まれ爪木崎で磯遊びをしました。磯遊びでは、海での活動が初めての子供たちもあり、生き物に興味津々で

した。午後から行った下田海中水族館では、案内図を片手に班の友達と計画的にショーを見学したり、お土産を買ったりと自分の考えだけで動くのではなく、周りの友達のものも考えながら、行動している様子も見えました。夜には、移動教室前にたくさん練習をした、室内レクリエーションを行いました。四グループとも工夫を凝らした演出となり学年で一体となる経験ができました。

最終日には、集団で動くことの大切さや難しさを一人一人が実感していました。帰りのバスの中では、今回の移動教室の振り返りや感想を各クラスで発表しました。その中には、「周りへの礼儀」「みんなで協力することの大切さ」があらためて分かった「など自分自身の行動を見つめなおす意見が多く出ました。

今回の移動教室を通して、子供たちは、普段の学校生活では、体験できない事を多く学びました。この経験を今後の学校生活にも生かしていきます。五年生にとって有意義な時間となりました。

(文責 五年 本城 直樹)

## 四季折々

校長 城崎 真

### 「働き方改革」

報道等でご存知のように、教員の仕事のブラック化が言われています。『都の教員採用倍率が過去最低』という記事が出されました。記録が残る昭和六十一年度採用試験以降で最低の3.9倍になったそうです。これは本年度採用選考の5.7倍に続いて、過去最低を更新しました。小学校では2.7倍だそうです。ある識者は、教員のブラック化が報道され、敬遠されたのではないかとコメントしていました。

都や区でもこの状況を重く受け止め、対策に乗り出しているところです。光和小でも教員の健康管理や児童とふれあう時間の確保を目標として、改善に向けて取り組んでいます。ただ、この改革は生やさしいものではありません。時間を生み出すためには、業務改善や大胆な行事等の見直しを図る必要があるからです。今まで行ってきたことを縮小したり、無くしたりすることはとても抵抗感のあることです。しかし、それをしなければ改革はできないと考えます。そこで、今後、学校評議員とも話し合いをもちつつ、改革を進めてまいります。ことをご理解お願いいたします。

### 「安全指導」

六月十八日に発生した大阪府北部を震源とする地震によるプール堀の倒壊で女子児童が亡くなるという痛ましい事故が発生しました。光和小では、翌日、全クラスで「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所に避難することを指導しました。また、地域の安全調査ではPTA校外委員の方がすぐに動いてくださり、綿密な調査をしてくださいました。ありがとうございます。七月の避難訓練は「地震」です。当日「防災ノート」災害と安全く「を使って全クラスで指導を行う予定です。どうぞご家庭でも、土曜授業日等を活用し、お子さんと通学路の安全についてご確認をお願いします。(二〇一八年 七月)